ニッケイ新聞 NIKKEY SHIMBUN
2016年 11月 25日（金曜日）

へいわ しりょうかん ぜんしょう

ラーモス平和資料館が全焼

蜂の駆除作業中に発火
鐘と灯は無事、再建困難か

無残な姿になった平和資料館。事故から一夜明けた23日、ユーカリの支柱からはまだ煙が立っていたという（山本和憲さん撮影）

22日午前、サンタカタリーナ（SC）州フレイ・ロジェリオ市にあるラーモス移住地の平和資料館で火災事故が起き、建物が全焼した。くん煙による蜂の駆除作業中に発火した。けが人はなかった。平和の鐘は現場から持ち出され無事だったが、その他の展示品は焼失し、再建のめどは立っていない。

平和資料館は、以前から天井部分に蜂が巣をつくり、来館者への攻撃が心配されていた。

クリチバーノス消防署に処置を依頼していたが、当分の間は無理だと断られていたという。

今週には、近隣の小学校2校から約100人の来訪を控えていた。児童への被害が懸念されたため22日朝から、フレイ・ロジェリオ市役所による駆除作業が行なわれたという。殺虫剤による駆除が効果的でなかったため、煙での追い出しを試みたことが火災に繋がった。

天井はアルミ製の板材だったが、発泡スチロールやビニール素材も使用されていた。それを認識しない作業員が、不用意に火を近づけたことで燃え移った。地域住民の話では午前11時過ぎの出火とみられる。

火は瞬く間に建物全体へ燃え広がり、30分後に消防車が到着したが手遅れだった。この火災でけが人はなかったが、戦争や原爆に関する多くの展示物を失った。唯一、長崎市寄贈の平和の鐘だけを持ち出すことができたという。

資料館には昨年12月に、長崎から世界平和の願いを込めた「平和の灯」が分灯されたばかりだった。室内灯火台はステンレスの輝きが失われ、ガスボンベも破裂していた。ただし、「平和の灯」の充電池の一部が別の場所に保管されていたため、再建時にも問題なく点火できるという。

フレイ・ロジェリオ市の岩崎秀樹副市長が、伯国メディアの取材に応じている。G1には「原爆被害者や子孫によって建てられた歴史的施設。観光場所の一つでもあり、資料館を失うことは非常に悲しい」とのコメントが掲載された。建物の再建は財政上困難とも語ったが、「復旧は必要だ」との見方を示している。

またラーモス被爆者協会の小川渡会長も火災事故に落胆した。知人を通じ、「再建に向け多大な労力と資金を必要とするが、世界平和を願う全ての人々の協力なしには成し遂げられない」と前を向き、今後の協力を呼びかけた。

再建には南伯だけでなく、全国各地から救いの手が必要だ。

大耳小耳

ラーモス移住地の元文協会長、山本和憲さんも平和資料館の火災に落胆した一人。事故からすぐに、各方面から励ましや協力の申し出などが寄せられたそう。フェイスブックを通じ、南大河州ポルト・アレグレの医師、森口家からも連絡が寄せられた。何度も巡回診療で訪れた土地だけに、思い入れも強いよう。世界平和の発信拠点を失った意味は大きい。